

nogen がつく用語の日本語表記について  
「ノーゲン」か？ 「ノゲン」か？

### 臨床薬理学会

コンセンサスは得られていませんが、学会誌では表記はノゲン（発音から）とするつもりです。実際はノジェンに近いのですが。

植田真一郎

琉球大学大学院医学研究科 臨床薬理学

### 日本血液学会

安部英先生は、fibrinogen につきまして、フィブリノーゲンという発音をしている国は日本だけだと言って、フィブリノゲンとすべきだと主張しておられました。私見ですが、ノーゲンではなく、ノゲンが良いように思います。 浦部

### 日本神経学会

神経学用語集改訂第3版(日本神経学会用語委員会 編)平成20年5月12日第1刷 P.112では、plasminogen activator inhibitor (PAI) プラスミノゲンアクチベーターインヒビターと、掲載されております。調べた限りでは他には nogen のつく用語はございませんでした。

河村 満 昭和大学医学部 神経内科

### 日本臨床検査医学会

当学会では、JLAC-10 という臨床検査項目コードを設定していて、現在では検査関係団体だけではなくDPCや特定健診でも公式に使用されています。従いまして、フィブリノーゲンを始めとします。gen 物質につきましては、この項目コードに使用しています名前を公式なものとしてお認め戴ければ幸いです。JLAC-10 は日本臨床検査医学会のホームページ (<http://www.jscep.org/>)からご覧いただけます。

JLAC-10 から関係する項目を拾ってみましたところ、下記の通りでございます。一般的な学術書では、フィブリノーゲンはフィブリノゲンとして使われる場合が多いと認識していますが、JLAC-10 では「フィブリノーゲン」でして困惑致します。しかし、世間では、このコードと検査名が広く公的に使用されていますので、当学会としましては、下記の名前を使用して戴きたいと言わざるを得ません。ただし、医学会用語委員会で、決定がなされた場合には、当学会の項目コード委員会に諮って修正することもあり得るかと思存します。

ウロビリノーゲン定性[尿]

クリオフィブリノーゲン

フィブリノーゲン

プラスミノゲン

プラスミノゲンアクチベーターインヒビター

ペプシノーゲン

ポルフォビリノーゲン

ポルフォビリノーゲンデアミナーゼ

ウロポルフィリノーゲンI合成酵素

高分子キニノーゼン

高分子キニノーゼン・カルパイン複合体

キニノーゼン

P3P(プロコラーゲン III プロペプチド)

コラーゲン タイプIV

項目コードにはございませんが、アンジオテンシノゲンもございます。

ところで、問題に気づきましたのですが、以前に「アンジオテンシン」と「アンジオテンシン」との比較があり、私も高血圧学会の立場をとって後者を押すようなご返事をさし上げましたが、JLAC-10では「アンジオテンシン」となっております。

また、下記の項目（左が現在の JLAC-10、右が別読みです）につきましても多少の混乱があるかと存じますので、ご検討に加えて戴ければ幸いです。

コルチゾン⇒コーチゾン      コルチゾール⇒コーチゾール

ドーパミン⇒ドパミン

カテコールアミン⇒カテコラミン

エストロジェン⇒エストロゲン

プロジェステロン⇒プロゲステロン

C-ペプチド⇒C-ペプチド

アンジオテンシン⇒アンジオテンシン

プロスタグランジン E⇒プロスタグランディン E

ダイレクトシーケンス解析⇒ダイレクトシクエンス⇒ダイレクトシーケンス⇒ディレクト

サーモグラフィー⇒サーモグラフィ      (類：クロマトグラフィ他、多数)

また

Cardiology に関する呼び名も統一が必要ですね。カージオロジー?、カルジオロジー?、カルディオロジー

i の発音を「イ」とするか「アイ」とするか?⇒カルジオライピン、-リピン  
ご検討を賜りますと幸いです。宜しくお願い致します。

\*+\*

高橋伯夫 (附属滝井病院長)      関西医科大学 臨床検査医学講座

## 日本口腔科学会

意見統一しているわけではありませんが、医師国家試験出題基準（平成21年版）および歯科医師国家試験出題基準（平成18年版）では、いずれも下記の表記が用いられております。

・ウロビリノゲン

・フィブリノゲン

同じ物質であれば、表記の統一を図るべきと思います。

須田 英明 東京医科歯科大学 大学院 歯髄生物学分野

## 日本循環器学会

では、「・・ノーゲン」および「・・ノゲン」の両者を可とし、併記しております。両者の表記がありどちらとも決めがたいのでそのようにしております。

添付のファイルが --nogen のつく単語の一覧です。

筑波大学 渡辺重行

|   |                             |
|---|-----------------------------|
| angiotensinogen                                 | アンジオテンシノ[-]ゲン               |
| anisoylated plasminogen/streptokinase activator | プラスミノ[-]ゲン/ストレプトキナーゼ活性因子複合体 |

|  |   |
|--|---|
| complex (APSAC = anistreplase)   |   |
| antifibrinogen therapy   | 抗線維素療法  |
| APSAC ([anisoylated] plasminogen/streptokinase activator complex = anistreplase) | プラスミノ[-]ゲン/ストレプトキナーゼ活性化因子複合体                          |
| cryofibrinogenemia   | 寒冷フィブリノ[-]ゲン血症  |
| desmodus salivary plasminogen activator (DSPA)                                   | ナミチスイコウモリだ液プラスミノ[-]ゲン活性化因子                            |
| DSPA (desmodus salivary plasminogen activator)                                   | ナミチスイコウモリだ液プラスミノ[-]ゲン活性化因子                            |
| FgDP (fibrinogen degradation product)  | フィブリノ[-]ゲン分解[産]物                                      |
| fibrinogen   | フィブリノ[-]ゲン、線維素原                                       |
| fibrinogen degradation product (FgDP)  | フィブリノ[-]ゲン分解[産]物                                      |
| fibrinogen/albumin ratio   | フィブリノ[-]ゲン/アルブミン比                                     |
| Ga-67 fibrinogen-DAS (dialdehyde starch)-DFO (deferoxamine)                      | ガリウム (Ga)-67 フィブリノ[-]ゲン・ジアルデヒドデンプン・デフェロキサミン (DAS・DFO) |
| Ga-67 fibrinogen-dialdehyde starch (DAS)-deferoxamine (DFO)                      | ガリウム (Ga)-67 フィブリノ[-]ゲン・ジアルデヒドデンプン・デフェロキサミン (DAS・DFO) |
| high molecular-weight kininogen  | 高分子量キニノ[-]ゲン  |
| I (iodine)-131 fibrinogen  | ヨウ素 (I)-131 フィブリノ[-]ゲン                                |
| iodine (I)-131 fibrinogen  | ヨウ素 (I)-131 フィブリノ[-]ゲン                                |
| kininogen  | キニノ[-]ゲン  |
| mutant tPA (tissue plasminogen activator)  | 遺伝子組換え[型]プラスミノ[-]ゲン活性化因子                              |
| PA (plasminogen activator)   | プラスミノ[-]ゲン活性化因子                                       |
| PAI-1 (2) (plasminogen activator inhibitor 1)                                    | プラスミノ[-]ゲン活性化因子インヒビター1(2)                             |
| PAI-1 (plasminogen activator inhibitor 1) deficiency                             | プラスミノ[-]ゲン活性化因子インヒビター1 欠乏症                            |
| plasminogen  | プラスミノ[-]ゲン  |
| plasminogen activator (PA)   | プラスミノ[-]ゲン活性化因子                                       |
| plasminogen activator inhibitor 1 (PAI-1 (2))                                    | プラスミノ[-]ゲン活性化因子インヒビター1(2)                             |
| plasminogen/streptokinase activator complex (APSAC = anistreplase)               | プラスミノ[-]ゲン/ストレプトキナーゼ活性化因子複合体                          |
| plasminogen-streptokinase complex  | プラスミノ[-]ゲン・ストレプトキナーゼ複合体                               |
| recombinant tissue plasminogen activator (tPA)                                   | 組換え型組織[型]プラスミノ[-]ゲン活性化因子                              |
| recombinant tPA (tissue plasminogen activator)                                   | 組換え型組織[型]プラスミノ[-]ゲン活性化因子                              |
| scu-PA (single-chain urokinase-type plasminogen activator, pro-UK, prourokinase) | 1本鎖ウロキナーゼプラスミノ[-]ゲンアクチベーター                            |
| single-chain urokinase-type plasminogen activator (scu-PA, pro-UK, prourokinase) | 1本鎖ウロキナーゼプラスミノ[-]ゲンアクチベーター                            |
| streptokinase-plasminogen complex  | ストレプトキナーゼプラスミノ[-]ゲン複合体                                |

|  |                           |
|--|---------------------------|
| tcu-PA (two-chain urokinase-type plasminogen activator, urokinase) | 2本鎖ウロキナーゼ型プラスミノ[-]ゲン活性化因子 |
| tissue plasminogen activator (tPA)                                 | 組織[型]プラスミノ[-]ゲン活性化因子      |
| tPA (tissue plasminogen activator)                                 | 組織[型]プラスミノ[-]ゲン活性化因子      |
| two-chain urokinase-type plasminogen activator (tcu-PA, urokinase) | 2本鎖ウロキナーゼ型プラスミノ[-]ゲン活性化因子 |
| uPA (urokinase-type plasminogen activator)                         | ウロキナーゼ型プラスミノ[-]ゲン活性化因子    |

## 医学中央雑誌

医中誌では、「ノーゲン」の方を優先しています。どちらにするかは、典拠のあり、なしにもより、ケース・バイ・ケースですが、先生に送って頂いたリストにある用語で調べてみたものを添付させていただきます。

私が当会の用語マスターを見た限りでは、古いものほど、採用が古いものほど、「ノゲン」という表記が目立ちますが、最新医学用語辞典では、「ノゲン」としているものが多く、他の辞書、ドーランドや、生化学辞典などを典拠に持つ用語は、「ノーゲン」となっております。

豊玉 速人 特定非営利活動法人 医学中央雑誌刊行会システム管理課

## 内科学会

では”ノーゲン”となっています。

峯 徹哉

## 小児科学会

からは以下のようにコメント致します。

「-nogen」のつく用語の日本語訳は「・・・ノーゲン」で統一する。

森内浩幸 日本小児科学会用語委員会委員長

小児科学会の脇口です。

ノーゲンが一般的になりつつある（なっている？）のではないのでしょうか。

## 生化学会

生化学会の企画委員に意見を求めました。

生化学の講義では、...ノーゲンとのばしたものを教えているようです。多くの教科書もそうですし、私もそうしています。

但し、原音に近づくように短く統一してはとの意見もありました。

以下、3人の委員の意見の抜粋です。

### 委員#1

.....  
授業では、ノーゲンと伸ばして発音しています。

生化学事典・東京化学同人では、フィブリノーゲン、ペプシノーゲン、キモトリプシノーゲン、キニノーゲン...とあります。

医学大辞典 第19判・南山堂でも、フィブリノーゲン、ペプシノーゲン、キモトリプシノ

ーゲン...です。

化学事典・東京化学同人でも、フィブリノーゲン、ペプシノーゲン...です。

教科書では、

ヴォート 生化学・東京化学同人は、フィブリノゲン、アンジオテンシノゲンです。

#### 委員# 2

これまで XXX ノーゲンだと思っておりましたし、講義でも XXX ノーゲンとして使 っておりました。しかし、改めて英語を聞くと、XXX ノーゲンというよりは XXX ノゲン(XXX ノジェ ン) という方が近いような気がしました。どちらかに統一するのなら、原音に近い方に統一する方が良いように思います。

#### 委員# 3

昨年肝炎ウイルス汚染で問題になっていたフィブリノゲン製剤に関してです が、フィブリ ノーゲンと教わりまたそのように教えてもいたので、マスコミで フィブリノゲンと言われ ると何となく違和感を覚えていました。

また、一般名はフィブリノーゲンで、商品名はフィブリノゲンなのかな、など と勝手に思 っておりました。

和泉孝志 群馬大学

### 日本脈管学会

役員へご意見を伺ったところ、9 名からご意見を戴きましたので、ご報告申し上げます。

1) ノーゲンが良いという意見は、6 名

2) ノゲンがよいは、2 名

その他に、コメントだけが 1 名

更にコメントを 3 名からいただきました。

コメントのみ：

ノーゲン はドイツ語のイメージで、なじみがありますが、英語の単語と続けるにはおか しいかもしれません

ノゲン は英語風になりますが、本質的には ノジェン となるものではないでしょうか だれかがエイッと決めればよろしいかと存じます

コメントー1：どちらかに統一すればよいと思いますが、いずれも慣用的に用いられてきて おり、現実的には中々変更しても行き渡りません。フィブリノジェンと発音する人もいま す。

「・・・ノゲン」の方が原語発音に近いかと思ひます。

コメントー2：個人的には、英語発音に近い「ノゲン」を使用していますが、一般的に「ノ ーゲン」の頻度が高いようにおもわれます。この際、根拠を示して「ノゲン」に統一する か、あるいは慣用語句を尊重するか、委員会の趣意に沿ってご判断いただければと存じま す。

コメントー3：内科学会の用語集は ノーゲン、循環器学会の用語集は ノ (一) ゲ ン、日本医学会も ノ (一) ゲンが多いが、フィブリノゲンは ノゲン

妥協案なら、ノ（一）ゲン というどちらでも使える表現ですが、私自身は、ノゲンがすっきりするように思います。

日本脈管学会事務局  
株式会社メディカルトリビューン 学会事務室長 加藤 眞一

## 日本リウマチ学会

委員の意見では、「ノゲン」4名に対し「ノーゲン」2名でした。

理由は別添のとおりです。

この度、リウマチ学会の用語集を見直して、「ノーゲン」と「ノゲン」が混在していることが分かりましたが、単純に数からいえば、「ノーゲン」の方が優勢でありました。「ノジェン」はありません。

英語読みとあまり乖離することは避けた方が望ましいとの考えが最近目立ってきていることがあると思います。当学会用語委員会で検討するにつき、他学会のご意見も参考とすべきと考えますので、中間段階でご連絡を頂きますようお願いいたします。

(中)日本リウマチ学会

医学用語委員会 委員長 猪熊茂子

(代)事務局 平山鉉哲

|      |   |
|------|---|
| 武井修治 | 小児科学会用語集で fibrinogen を調べてみると、＜ノゲン＞で表音してあります。また、いくつかの教科書をあたっても＜ノゲン＞が多いようです。発音を調べても、Fibrinogen は「fai・brine・dzen」（←の e は e を左右逆にしたあいまいな a です）ファイ・ブリナゼンです。したがって、長音を加えた＜ノーゲン＞よりは、＜ノゲン＞の方がより原音に近いように思います。 |
| 谷 憲治 | 「・・・ノゲン」よりは「・・・ノーゲン」の方が一般的であり、内科学用語集第5版（日本内科学会編）と呼吸器学用語集（日本呼吸器学会編）はともに「フィブリノーゲン」の記載でしたので「・・・ノーゲン」の記載に統一した方がよいのではないかと思います。   |
| 大島久二 | これまで単語の最後につく「一」は日本語訳では省略してきた経緯があると思います。例えば receptor はレセプタのように。また、英語の発音では必ずしも日本語にあたる「一」というのばず発音ではないように思います。これらから、私個人としては「ノーゲン」ではなく「ノゲン」に統一してよいと思います。   |
| 加藤智啓 | どちらで統一しても誤りとはいえません。しいていえば、英単語の発音からすると nogen は「ヌアジャン」に近く、強いアクセントはありません。カタカナでノーゲンとすると日本人は「ノーゲン」の「ノー」を強く発音しがちであり、強アクセントになってしまいます。強アクセントにならない「ノゲン」の方が発音上、原語にまだ近いと感じ、「ノゲン」に一票いれたい気持ちです。ご検討ください。          |
| 松本俊治 | 多くの病理医はノゲンを通常使っていますが。   |
| 山口晃弘 | 例えば fibrinogen を例に取りますと、個人的には「フィブリノーゲン」としたいところです。英語の読み準じて表記すべきだという方は、長音記号を省略すると思いますが、この場合「ゲン」の部分も「ジェン」と読み替える必要があるかもしれません。ですから「フィブリノーゲン」か「フィブリノジェン」という議論も可能と思われ、「フィブリノゲン」という表記は片手落ちのように見えます。         |

## 脊山用語管理委員の意見

各分科会の意見を拝見しました。

医学用語管理委員会委員としての立場から結論を先に申し上げますと「フィブリノーゲン」に統一すべきだと思います。

「フィブリノーゲン」説の根拠として英語の発音に近いという点が挙げられておりますが、だとすると「フィブリノジェン」とするべきです。「キモトリプシフィブリノーゲン」も「カイモトリプシノジェン」となります。むしろ「-nogen」は「\*ノーゲン」と訳す、としてはいかがでしょうか。

「computer」は「コンピューター」とする世の中の大勢に対して、工学系だけが長い間「コンピュータ」と、音引きしない訳語を用いてきましたが、マイクロソフト社が2008年7月25日に外来語カタカナ用語の末尾の音引きについて、「外来語の表記」（平成3年内閣告示第二号）をベースにしたルールへと変更すると発表したのを受けて、学会においても「コンピューター」に統一されていくと思われま

す。「fibrinogen」だけ個別に取り上げて外国における発音との整合性を議論するのは時宜に適さないと思います。「xylose」は「キシロース」と訳し、外国での発音に近い「ザイロース」とは訳さない、など発音との関連には奥の深い問題があります。

脊山洋右